

RANK 関数

クリップボード

fx

=RANK(E5,\$E\$5:\$E\$16,0)

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
	英語スキル認定テスト			筆記が65点以上であれば合格、そうでなければ不合格								
				1次試験								
	従業員No.	氏名	所属	筆記	順位							
	51563	新藤 康介	東京	80	7							
	52305	牧原 利光	大阪	95	2							
	52294	熊本 直美	大阪	65	10							
	53204	植田 真紀	東京	92	3							
	54121	山下 純一	大阪	100	1							
	57412	加藤 豊	大阪	75	8							
	58092	森田 俊平	東京	57	12							
	60129	藤原 浩二	東京	87	6							
	61137	大石 絵美	大阪	92	3							
	62492	小宮 裕子	東京	67	9							
	64138	宮川 実久	東京	60	11							
	65203	渡辺 真司	大阪	90	5							

関数の引数

RANK

数値 E5 = 80

参照 \$E\$5:\$E\$16 = {80;95;65;92;100;75;57;87;92;...}

順序 0 = FALSE

= 7

この関数は Excel 2007 以前のバージョンと互換性があります。
順序に従って範囲内の数値を並べ替えたとき、数値 80 は 7 番目に高い値です。

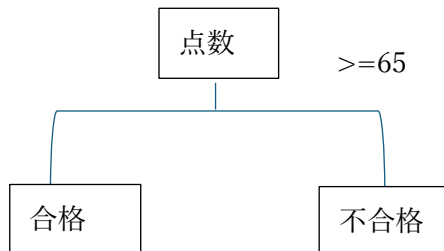
数式的結果 = 7

[この関数のヘルプ\(H\)](#)

OK

キャンセル

範囲を選択した後に
F4 を押す。



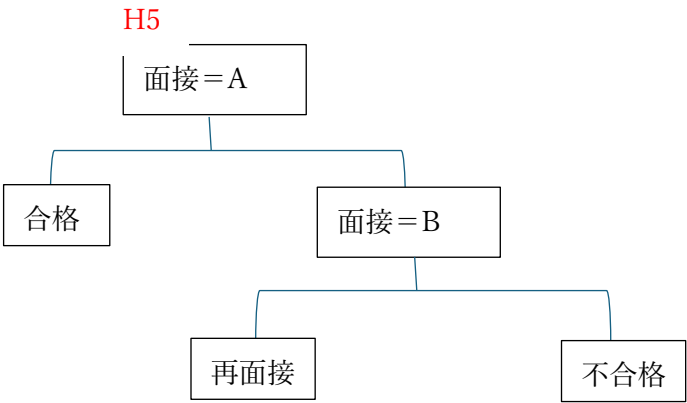
関数のネスト＝関数の条件を増やす

fx

=IF(H5="A","合格",IF(H5="B","再面接","不合格"))

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
英語スキル認定テスト				筆記が65点以上であれば合格、そうでなければ不合格					
				1次試験			2次試験		
	従業員No.	氏名	所属	筆記	順位	1次評価	面接	最終評価	
	51563	新藤 康介	東京	80	7	合格	A	合格	
	52305	牧原 利光	大阪	95	2	合格	A	合格	
	52294	熊本 直美	大阪	65	10	合格	B	再面接	
	53204	植田 真紀	東京	92	3	合格	A	合格	
	54121	山下 純一	大阪	100	1	合格	A	合格	
	57412	加藤 豊	大阪	75	8	合格	C	不合格	
	58092	森田 俊平	東京	57	12	不合格	-	不合格	
	60129	藤原 浩二	東京	87	6	合格	A	合格	
	61137	大石 絵美	大阪	92	3	合格	C	不合格	
	62492	小宮 裕子	東京	67	9	合格	B	再面接	
	64138	宮川 実久	東京	60	11	不合格	-	不合格	
	65203	渡辺 真司	大阪	90	5	合格	A	合格	

面接が A であれば合格。面接が B であれば再面接。面接が C であれば不合格。



IFS 関数

関数のネストを使わなくても IF 関数と同じようなことができる。

(関数一覧の冊子 P234 参照)

関数の引数

IFS 論理式 1 H5=A

値が真の場合	論理式	結果
値が真の場合1	"合格"	= "合格"
論理式2	H5="B"	= FALSE
値が真の場合2	"再面接"	= "再面接"
論理式3	1	= TRUE
値が真の場合3	"不合格"	= "不合格"

1 つ以上の条件が満たされるかどうかを確認し、最初の真条件に対応する値を返します

値が真の場合3: は論理式が真の場合に返される値です

数式の結果 = 合格

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

そうでなければ=TRUE= 1

SWITCH

関数の引数

SWITCH

値1 "A" = "A"

結果1 "合格" = "合格"

既定または値2 "B" = "B"

結果2 "再面接" = "再面接"

既定または値3 "不合格" = "不合格"

既定または値3: 値1, 値2, ... 式と比較される値となり

数式の結果 = 合格

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

IFS に似ているが「もしも」ではなく

「OO だったら■■、XX だったら★★」というような解釈

AVERAGEIF や SUMIF や COUNTIF 等 IF がつくものがいくつかある。

AVERAGEIF は条件付きの平均

SUMIF は条件付きの合計

COUNTIF は条件付きの個数を数える

「この範囲の中にこれがあって」を考える。

●DATEDIF→FX ボタンから選べない。手入力をする。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1		従業員名簿				2024/7/11	現在							
2														
3		従業員No.	氏名	部署No.	部署名	入社年月日	勤続年数							
4		49142	宮田 大輔	10	総務部	2004/4/1	=DATEDIF(\$F\$1,"Y")							
5		50391	山下 唯	20	経理部	2003/4/1								
6		51424	岸田 伸介	30	人事部	2006/4/1								
7		53117	石原 美佳	40	営業部	2008/4/1								
8		54351	前原 俊光	50	デザイン企画部	2009/4/1								
9		55447	有田 早穂	60	情報システム部	2010/10/1								
10		57073	藤原 優佳	10	総務部	2012/4/1								
11		58196	木下 健次郎	20	経理部	2013/4/1								
12		60263	斉藤 博貴	30	人事部	2015/4/1								
13		61489	武本 有紀	40	営業部	2016/10/1								
14		64257	元原 美鈴	50	デザイン企画部	2019/4/1								
15		65110	大森 裕也	60	情報システム部	2020/4/1								
16														
17														
18														

【部署コード】

関数の引数

DATEDIF

開始日 F1 = 38078

終了日 \$F\$1 = 45484

単位 Y

年月日を打つ
年:Y 月:M 日:D
今回は勤続年数なので Y

●VLOOKUP

従業員名簿		2024/7/11 現在		【部署コード】	
従業員No.	氏名	部署No.	部署名	入社年月日	勤続年数
49142	宮田 大輔	10	総務部	2004/4/1	20
50391	山下 唯	20	経理部	2005/4/1	19
51424	岸田 伸介	30	人事部		
53117	石原 美佳	40	営業部		
54351	前原 俊光	50	デザイン企画部		
55447	有田 早穂	60	情報システム部		
57073	藤原 優佳	10	総務部		
58196	木下 健次郎	20	経理部		
60263	斉藤 博貴	30	人事部	2015/4/1	9
61489	武本 有紀	40	営業部	2016/10/1	7
64257	元原 美鈴	50	デザイン企画部	2017/1/1	5
65110	大森 裕也	60	情報システム部	2020/4/1	4

【部署コード】	部署No.	部署名
	10	総務部
	20	経理部
	30	人事部
	40	営業部
	50	デザイン企画部
	60	情報システム部

データが入っている範囲だけ選ぶ

関数の引数

VLOOKUP

検索値: D4 = 10

範囲: I4:J9 = {10,"総務部";20,"経理部";30,"人..."

列番号: 2 = 2

検索方法: 0 = FALSE

= "総務部"

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。

検索値 には範囲の先頭列で検索する値を指定します。検索値には、値、セル参照、または文字列を指定します。

数式的結果 = 総務部

[この関数のヘルプ\(H\)](#)

OK キャンセル

範囲を読み込むこともできる。詳しくはプリント参照。

0=FALSE=完全一致

1=TURE=近似值

●データー入ってないところちょすなおめえ！の時に使う項目

従業員No.	氏名	部署No.	部署名
49142	宮田 大輔	10	総務部
50391	山下 唯	20	経理部
51424	岸田 伸介	30	人事部
53117	石原 美佳	40	営業部
54351	前原 俊光	50	デザイン企画部
55447	有田 早穂	60	情報システム部
57073	藤原 優佳	10	総務部
58196	木下 健次郎	20	経理部
60263	斉藤 博貴		
61489	武本 有紀		
64257	元原 ちよすな		
65110	大森 ちよすな		

右クリックでセルの書式設定を選ぶ。

保護タブでロックにチェック。

